

葛城山麓に於ける地域フローラと植生環境

— ある山里の景観と植物 —

池田光恵

金剛生駒国定公園の南に位置する金剛山(H.1125m)、葛城山(H.960m)は、河南町東部の背景として美しい緑地景観を形成している。しかし、ここ数十年、開発によって、国定公園に接したこの地域、葛城山地の基盤山地部とその前衛に相当する丘陵部の景観と地形は大きく変化している。削られた山に代わって、現在、視界に入り込むのは、住宅地と民間娯楽施設の牧場、霊園、ゴルフ場である。山麓には他に、残土処理場と土採集場もあり、新しいトンネルは、山の懐、峠の下を走る。

この地形の変化は、微妙にこの地域の気候と自然環境に影響を与えたのではないだろうか。その結果、当然、生態系にも影響が出ていると考えられる。山を削ることは、水量や水質を変化させることになるであろう。運び出された山土の後に埋められる建築土木工事の残土も無視できない。葛城山麓の景観や生態系は、今まで流れてきた時間やプロセスとは全く違った早さでドラマチックに変化している。こうした状況の中で、20世紀最後の現代の里山景観を21世紀に繋げるべく記録することは意義深いことだと考え、植物個体の撮影を大型カメラで始めた。しかし、山に足を踏み入ると、山麓の景観が変化すると同様に、植生についてもそれは著しい。数年後には現在とは異なる動植物分布図ができるのではないかと、考えさせられることも度々あった。1996年から始めた撮影は、細々であるが、継続することに意義があると考え、現在に至っている。

撮影条件と大型カメラのメカニズム

本来、できるだけ多くの植物個体を探して撮影するには、機動性のあるカメラを選ぶべきであろう。しか

し、装備の重さと構造の点で機動性は期待できないが、アオリによる形の矯正が可能で、フィルムの粒状性と大きさからくる情報量の多さという点で優れている大型カメラを撮影媒体とすることで、対象植物の生存環境、何処で、どんな状態で、存在するのか、ということがある程度理解できるのではないかと考えた。

両山は大きくて深い。登山コース以外、昔からある険しい山仕事の道や沢を登る。時には猪の通った獣道を歩く事もあり、時間と体力のいる仕事でもある。陽があまり差し込まない藪や林、谷や沢での撮影は、ある程度の被写体深度を確保しようとする、露光時間が長くなり、僅かな風や空気の流れにも影響を受ける。そして、カメラの構造上、上下左右逆に写るピントグラスを見ながら、複雑に重なった面が考えられる自然に対して、レンズ面とフィルム面を決定する作業は、撮影者に、対象植物、それが存在する「場」そのものと対峙することを求める。そこがまた大型カメラの大きな魅力でもある。私自身、対象植物が存在する「場」、その気配を撮りたいと思い常に挑戦するのだが、難しい。技術的な問題だけでなく、環境の変化による個体の減少は、カメラの足場が確保できるか否かということも含め、撮影条件や撮影ポイントの良し悪しや数に影響する。そこに、撮影者の時間的制約が加わり、撮影時期を逃すこともよくある。

季節による植生の変化は早く、特に春の遅い山は目まぐるしい。こうした条件下では多くの植物個体種を撮る事は望めないが、根気よく続ける必要がある。

谷間の村、青崩

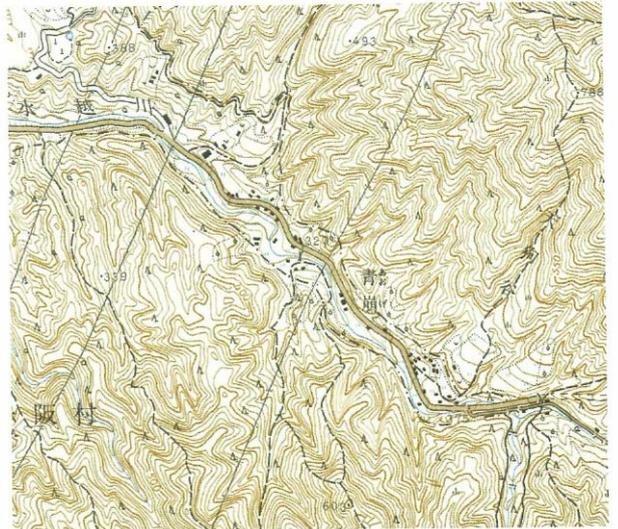
撮影の中心である青崩地区は、河南町の南東、北側

を葛城山、南側は金剛山に接した谷間に位置し、国道309号線が、両山の溪筋を流れる水越川に沿うように走り、それを挟んで大阪側の標高約300m～420m位の所、36軒の家が1km程の間に点在する細長い集落である。行政上は、水越川に架かる桑原橋から水越峠の手前までを、南河内郡河南町大字上河内の青崩地区としているが、隣接した千早赤阪村と奈良県側に入り組んで存在する田畑、山林、沢、谷筋などを含めて青崩と呼んでいる。これは、かつての村の生活圏であり、米や野菜を作り、柴や薪を日常的に確保できた範囲と考えられる。村の人によると、楠木正成の時代には青崩はすでに存在していたという。江戸中期から昭和初期にかけて開墾され広げられたのは、両山に入った高い所の田畑であり、物や金銭の貸し借り、人足の調達の当時の記録を見ると、大阪側より峠を越えて御所側の村と頻繁に行き来していたことが解るといふ。地理的に峠のすぐ近くにあるこの集落は、草が国道を走る以前までは、奈良大阪間を往来する人が、村の杵掛場で新しい草履に履き替え、馬に水を飲ませたりした所でもある。

青崩地区周辺の地形

集落は、北側を葛城山、南側を金剛山に接する水越川沿いの下刻の著しい扇状性谷底低地、15°～30°の傾斜地にある。礫や砂の段丘堆積物から成る斜面には、崩壊危険箇所と指定されている所が幾つも存在し、セメントで崩れないように崖を覆い、沢には礫や砂の流失を防ぐ為に砂防ダムが作られる。新しい砂防ダムが沢にできて、以前降りた所へ行けず撮影を断念することもある。棚田と集落は、黄色土壌の河南町域に集中する。大部分は自給用水田であり、畑は千早赤阪村域の山の斜面に多い。山仕事は奈良県域及び千早赤阪村域の金剛生駒国定公園内が殆どである。

昔から葛城山は、酸性土壌を好むススキとツツジが多い所で知られ、別名、篠峯山とも呼ばれている。一方、金剛山は、堅い岩盤が多い山で、かつて水銀を産出したと地区の人は言う。この両山の特徴が、青崩の植生



にも現れている。

山では、花崗岩類風化物を母材とした乾性褐色森林土壌と褐色森林土壌で古くから植林が行われ、前者はヒノキ、後者はスギの植林に比較的適している。その為か、1980年頃までは、村の大半の人が林業に従事していた。

村の生活に、山が大きな割合を占めている時、そこに多くの労力が注がれる。植林と伐採のバランスが保たれ、竹林や雑木林（クヌギ、シイ、カシ、アカマツ、コナラ……）が適当に存在し、きつい斜面で林内は暗くなりがちにはなるが、人の手が行き届く林は、豊かな植生を育てていたと考えられる。季節や木々の成長に応じて枝が払われ、下草が刈られる。落とされた枝や間伐材は、燃料や農業資材用に片づけられ、風通しがよく、光が適度に地面まで届く。多くの沢や谷、太陽と斜面方向、木々の成長の度合いと木の種類、高度の違いなどによって、かつては植物の種類も個体数もかなり豊富であった、と地区の人からよく聞く。しかし、以前ほどではないとはいえ、雑木や植物がまだ豊富に残っている両山は、水越川の水源として重要な機能を果たしていることに変わりはない。現に、昔から水争いを起こしてきた水源、奈良県側と大阪側の分岐点は、峠から水量の多い金剛山側に入った所にあ

り、地区の簡易水道は、これも金剛山水系の恵を受けている。そして、毎年、建水分神社の氏子である水越川流域の村は、だんじりを引き回す秋祭りで、神に川の水と豊作を感謝するのであり、その源は両山である。というように、物理的にも精神的にも山と人々は結びついているのである。

山と人と生活

都会では、かつて街の風景の中にあつた小河川の多くは、コンクリートで蓋をされ、道路の下を流れている。ビルの隙間から覗く山々は、遠く途切れ途切れに見える。山が視界に入っている、日常生活の中で、意識的に見つめない限り、その存在を忘れていてもあるであろう。現代人にとって、野や山は、たまに交通手段を使って出かけ、自然を体験する場所であり、テレビの映像風景の中で見ることで、訪れなくても知識やイメージは得ることができるのである。いずれにせよ、現実の生活との拘わりはかなり薄いと言えるであろう。

では、現代の山里の生活はどうであろうか。地形的に大きな制約を受ける農作業は、平地に比べ手間がかかり、生活の糧を得るには相当なエネルギーが必要となり大変である。小規模であれば、なおさらである。実際、農林業以外で収入を得る為、村の外で職を得ている人が殆どである。村の働き手にとって、生活ペースや感覚は、都市とあまり変わらない、都市近郊のベットタウンに近い存在になりつつある。

青崩でも、全戸数 36 軒の内、専業農家は 2 軒、山仕事に従事しているのは主に 2 人、昔のように米や野菜を全て賄ってはいないが、田畑は自家用が多い。造園業に従事する 7、8 人も村外で働いているから、地区の山との関わりは昔ほどではない。現代の生活様式が浸透するにつれ、山に対する生活依存度は、確実に、低くなっているといえるであろう。しかも、労働の主役は前世代である。そうした仕事をする人達が高齢化し減少するのは避けられない現実である。それは、山

の世話が行き届かなくなることを意味し、植生環境が変化する大きな要因にもなるであろう。

変化する植物生態系

峠を越え奈良に至るへアピンカーブの多い旧道は、冬は凍結や雪で不通になることがある。御所―青崩を結ぶトンネルの開通は、それを緩和したが、出口は村の端であり、大型トラックが通行できるようになり、産業道路化した国道が集落を貫くことになった。騒音と排気ガス、交通量が増え、路線バスは日曜祭日のみ運行という青崩に、登山者がマイカーを連ねる。多発する交通事故とゴミの投棄、山は、都市のゴミ箱になり始めている。こうした状況が、山の生態系にとってプラスになることは決してないであろう。水質に敏感な蛍は殆ど絶滅に近い状態である。多量のセメントのアルカリ成分が川に影響を与えたのだろうか。工事では、その区域のおよそ 2.5 倍はアセスメントされると。そうであるならば、広範囲に、見えない所でも変化が起こっている可能性があるだろう。

山里の何処にでもいたカブトムシ、クワガタムシ、オニヤンマ、シオカラトンボ、イトトンボ……を以前ほど見かけない。土に影響受けやすいモグラやヘビも少なくなったような気がする。ウサギ、リス、フクロウも同様である。開発と因果関係があるかどうかは不明であるが、スズメが増え、イノシシが山の田畑を荒らすようになっている。

植物に関しても、土に混じって都会から運ばれる種子は、従来の植物生態系を脅かす一因になっているようだ。ベニバナボロギク、オオイヌタデ、オオニシキソウ、アメリカヤマゴボウ、イヌホウズキ、オオマツヨイグサ、アメリカセンダングサ、セイタカアワダチソウ、ヒメオドリコソウ……本来、山で見られなかった種が勢よく増え、園芸種までもが存在し、風景を微妙に変化させている。植物を根こそぎ持ち去った跡もよく見かける。ホタルブクロ(白、赤紫)、ウバユリ、オニユリ、ヤマユリ、ショウジョウバカマ、ミヤマカ

タバミ、キケマン、レンゲツツジ、ミヤマリンドウ、キフナツリソウ、シュンラン、サイハイラン、ナデシコ、センブリ、タニギキョウ……などは集落周辺から遠ざかりつつある。自生のササユリは滅多に見ることができなくなった。クサイチゴ、モミジイチゴ、クマイチゴ、クワ、グミ、アケビ、フユイチゴなどどこでも食する事ができたのは昔の話になってしまうかも知れない。

山の様子

人間と自然の今日的な作用関係が、この青崩地区の景観と動植物の生態系に影響を与えているのは確かである。しかし、それだけが原因ではない。現在の山里の置かれている状況が深く関わり、それが拍車をかけた結果と考える方が妥当であろう。

自然林ではないが、植林された林でも、苗木がまだ小さく、管理が行き届いた斜面は、風通しがよく、陽がよくあたり、植物個体は豊富である。木を以前より必要としない生活は、生産効率がけって良いとは言えない、きつい山仕事の人手を減少させ、植林のサイクルを狂わせる。そして、人の手が滅多に入らない、生長するままになった林を生みだし、植物にとって、辛い状況を招くことになる。年々そのような密集した暗い林が増えている様に見えるがどうであろう。

相当数の木々をなぎ倒し、草木と共に山の斜面を何カ所も削り流してしまった、1999年の河内地区直撃台風7号の痛手も大きい。雨風に対する山の持久力が弱まっているのだろうか。「こんなひどい被害は今まで無かった」と村人が言う程であった。未だ、至る所にその爪痕が残っている。山を回復するのに必要であろうエネルギーが、今の状況から考えると、余りにも乏しことに胸が痛む。傾き倒れた木は、中にヒビが入っていて薪くらいしか使い物にならないと聞く。倒れて朽ちるのを待つだけの木々や、林が消えた斜面を見ると、山道を塞ぐ倒木の胴に何回もチェーンソーを当てて取り除いていった男達の無念の思いが伝わってくる。

2003年に行ったうすい谷で、植林し直した斜面に残った倒れた木や枝を、黙々と片付けている婦人の姿が脳裏に焼き付いている。

現代の里山の状況

かつて日本人が「山」と言って対応した時、深山の自然というより、多くは人間が、一定程度手を入れながら成立してきた里山に対してであったろう。しかし、現代の生活様式の変化による人と山との拘わりの減少、そして何よりも今日的な人間と自然の極端な作用関係が生じている開発によって、山里の風景は劇的に変化している。生態系が変化するのは避けられないことである。次第に山が荒れていく今の現実に対処するとしても、殆どが民有林であり、働き手が高齢化している上に、青崩のように、行政区域が入り組んでいる所は、山の管理を一層難しくしている。

地球規模で、環境問題が取り上げられるようになって久しい。

温暖化現象、長雨や、反対に雨が全く降らない、暑過ぎる夏、涼しすぎる夏等々、天候の不順やそれに影響をうけやすい植物の病気や虫の発生。地形の変化は、気温や、植物に当たる光や風の流れを変える。植生条件が変われば、以前とは異なった個体種を見ることになるのは当然であろう。現に、同じ場所で見つけられなくなった個体もある。変化の相関関係が、植物生態系、地域フローラに影響を与えているのである。環境問題に関心が高まっている現代ではあるが、個人個人のモラルの差も激しい。市街化調整区域に、規制されている筈の建物が建ち、粗大ゴミを林や沢に捨てに来る者もいる。

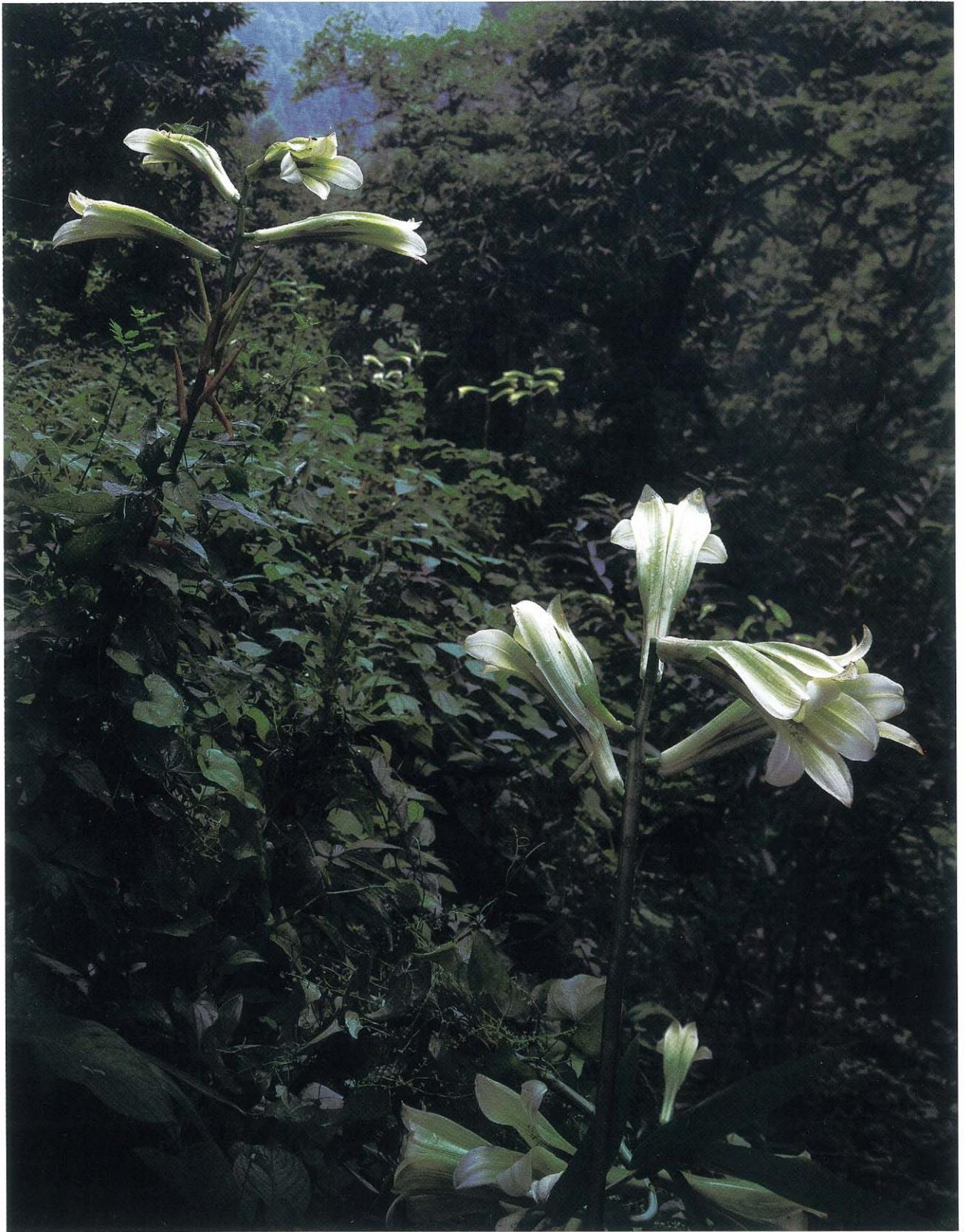
山国の我が国には、この様な小さな集落、里山ブームにも乗れない村が数多く存在するであろう。そこでは、今日的な作用のプロセスが、植物生態系と山里の風景を変えているのである。かつては山を糧に生きてきた峠通過地点の小さな村も、今確実に、しかもドラマチックに変化している。



カタクリ [ユリ科カタクリ属] *Erythronium japonicum* Decne. (5/3)



フクジュソウ [キンポウゲ科フクジュソウ属] *Adonis amurensis* Regelet Radd. (2/13)



ウバユリ [ユリ科ウバユリ属] *Lilium cordatum* Dandy (7/29)



イボタノキ [モクセイ科イボタノキ属] *Ligustrum obtusifolium* Sieb. et Zucc. (6/1)



ワレモコウ [バラ科ワレモコウ属] *Sanguisorba officinalis* L. (9/21)



サイハイラン [ラン科サイハイラン属] *Cremastra appendiculata* Makino (5/19)

植物名 (撮影日順同定済み植物)

1月	オモト〔ユリ科オモト属〕 <i>Rohea japonica</i> Roth(1/7) ヤマガキ〔カキノキ科カキノキ属〕 <i>Diospyros kaki</i> var. <i>sylvestris</i> (1/13) ヤブコウジ〔ヤブコウジ科ヤブコウジ属〕 <i>Ardisia japonica</i> Bl.(1/25,2/16)
2月	モチノキ〔モチノキ科モチノキ属〕 <i>Ilex integra</i> Thunb.(2/1) フクジュソウ〔キンボウゲ科フクジュソウ属〕 <i>Adonis amurensis</i> Regelet Radd.(2/13,18,23)
3月	ウメ〔バラ科サクラ属〕 <i>Prunus mume</i> Sieb. et Zucc.(3/1,12,14,16) フキ〔キク科フキ属〕 <i>Petasites japonicus</i> Miq.(3/4,15) アセビ〔ツツジ科アセビ属〕 <i>Pieris japonica</i> D. Don.(3/7,11,4/7) シロモジ〔クスノキ科クロモジ属〕 <i>Lindera triloba</i> (3/11,13,18,4/1) ニワトコ〔スイカズラ科ニワトコ属〕 <i>Sambucus sieboldiana</i> Blume(3/18,27,4/7,5/29) ヤマウグイスカズラ〔スイカズラ科スイカズラ属〕 <i>Lonicera gracilipes</i> Miq.(3/27) キブシ〔キブシ科キブシ属〕 <i>Stachyurus praecox</i> Sieb. et Zucc.(3/31,4/14)
4月	シュンラン〔ラン科シュンラン属〕 <i>Cymbidium virescens</i> Lindl(4/2,6) シロバナショウジョウバカマ〔ユリ科ショウジョウバカマ属〕 <i>H. orientalis</i> var. <i>flavida</i> (4/4,13) ショウジョウバカマ〔ユリ科ショウジョウバカマ属〕 <i>Heloniopsis japonica</i> Maxim.(4/4,13,21,5/3) ワサビ〔アブラナ科ワサビ属〕 <i>Wasabia japonica</i> Matsumu.(4/6) スズシロソウ〔アブラナ科ハタザオ属〕 <i>Arabis flagellata</i> Miq.(4/8) ツバキ〔ツバキ科ツバキ属〕 <i>Camellia japonica</i> L.(4/8,12) コスミレ〔スミレ科スミレ属〕 <i>Viola japonica</i> Langsd.(4/9) ヤマネコノメソウ〔ユキノシタ科ネコノメソウ属〕 <i>Chrysosplenium japonicum</i> Makino(4/8) ヤマハリソウ〔ムラサキ科ハリソウ属〕 <i>Omphalodes japonica</i> Maxim.(4/8,23) タチヌノフグリ〔ゴマノハグサ科クガイソウ属〕 <i>Veronica arvensis</i> L.(4/9) タチスズシロソウ〔アブラナ科ハタザオ属〕 <i>Arabis wasakiana</i> Makino(4/9) ヒメオドリコソウ〔シソ科オドリコソウ属〕 <i>Lamium purpureum</i> L.(4/9) ホトケノザ〔シソ科オドリコソウ属〕 <i>Lamium amplexicaule</i> L.(4/9) ヤマザクラ〔バラ科サクラ属〕 <i>Prunus jamasakura</i> (4/10) ミズナ〔イラクサ科ウワバミソウ属〕 <i>Elatostema involucratum</i> Franch. et Sav.(4/12) タニギキョウ〔キキョウ科タニギキョウ属〕 <i>Peracarpa carnea</i> var. <i>circaeoides</i> (4/12) ミヤマカタバミ〔カタバミ科カタバミ属〕 <i>Oxalis japonica</i> Franch. et Sav.(4/12,15) ハナイカダ〔ミズキ科ハナイカダ属〕 <i>Helwingia japonica</i> Dietr.(4/12) カキドオシ〔シソ科カキドオシ属〕 <i>Glechoma hederacea</i> L.(4/14) ヤマブキ〔バラ科ヤマブキ属〕 <i>Kerria japonica</i> DC.(4/15,5/2) チャルメルソウ〔ユキノシタ科チャルメルソウ属〕 <i>Mitella japonica</i> Miq.(4/17) アケビ〔アケビ科アケビ属〕 <i>Akebia quinata</i> Decne.(4/7,18,27,5/9,9/28,10/10) ヤマツツジ〔ツツジ科ツツジ属〕 <i>Rhododendron kaempferi</i> Planch.(4/17,21,5/16,17) ウバユリ〔ユリ科ウバユリ属〕 <i>Lilium cordatum</i> Dandy(4/17,7/22,27,29) ムラサキケマン〔ケシ科ムラサキケマン属〕 <i>Corydalis incisa</i> Pers.(4/17) カタクリ〔ユリ科カタクリ属〕 <i>Erythronium japonicum</i> Decne.(4/20,5/3) キランソウ〔シソ科キランソウ属〕 <i>Ajuga decumbens</i> Thunb.(4/21) クロモジ〔クスノキ科クロモジ属〕 <i>Benzoin umbellatum</i> Rehd.(4/20) ヒサカキ〔ツバキ科ヒサカキ属〕 <i>Eurya japonica</i> Thunb.(4/21) サルトリイバラ〔ユリ科シオデ属〕 <i>Smilax china</i> L.(4/22,11/11) ウワミズザクラ〔バラ科サクラ属〕 <i>Prunus grayana</i> Maxim.(4/26) シャガ〔アヤメ科アヤメ属〕 <i>Iris japonica</i> Thunb.(4/26,5/1) タチツボスミレ〔スミレ科スミレ属〕 <i>Viola grypceras</i> A. Gray(4/26) ヒトリシズカ〔センリョウ科センリョウ属〕 <i>Chloranthus japonicus</i> Sieb.(4/27,5/6) クモイカリソウ〔メギ科イカリソウ属〕 <i>Epimedium coelestre</i> (4/27,28) ミヤマスミレ〔スミレ科スミレ属〕 <i>Viola selkirkii</i> Pursh(4/28) ミツバウツギ〔ミツバウツギ科ミツバウツギ属〕 <i>Staphylea bumalda</i> DC.(4/29) ミヤマキケマン〔ケシ科ムラサキケマン属〕 <i>Corydalis pallida</i> Pers.(4/28,5/6)
5月	サイハイラン〔ラン科サイハイラン属〕 <i>Cremastra appendiculata</i> Makino(5/2,10,19) フタバアオイ〔ウマノスズクサ科カンアオイ属〕 <i>Asarum caulescens</i> Maxim.(5/2) フタリシズカ〔センリョウ科センリョウ属〕 <i>Chloranthus serratus</i> Roem. et Sehltd.(5/2) モミジイチゴ〔バラ科イチゴ属〕 <i>Rubus palmatus</i> var. <i>coptophyllus</i> (5/2,6/2) マンネンズギ〔ヒカゲノカズラ科ヒカゲノカズラ属〕 <i>Lycopodium obscurum</i> L.(5/3) ホウチャクソウ〔ユリ科チゴユリ属〕 <i>Disporum sessile</i> Don(5/4,19) ギンラン〔ラン科ギンラン属〕 <i>Cephalanthera erecta</i> Lindl.(5/5) ネコノメソウ〔ユキノシタ科ネコノメソウ属〕 <i>Chrysosplenium grayanum</i> Maxim.(5/6) ミヤマキンボウゲ〔キンボウゲ科キンボウゲ属〕 <i>Ranunculus acris</i> var. <i>nipponicus</i> (5/7) ツボスミレ〔スミレ科スミレ属〕 <i>Viola verecunda</i> (5/7) ウシコロシ〔バラ科ウシコロシ属〕 <i>Pourthiaea villosa</i> Decne.(5/9) コツクバネウツギ〔スイカズラ科ツクバネウツギ属〕 <i>Abeliaserrata</i> Sieb. et Zucc.(5/12) ジャケツイバラ〔マメ科ジャケツイバラ属〕 <i>Caesalpinia sepiaria</i> var. <i>japonica</i> (5/12,20,26,30,6/11) チゴユリ〔ユリ科チゴユリ属〕 <i>Disporum smilacinum</i> A. Gray(5/11,13,16) ツルカノコンソウ〔レンブ科ツルカノコンソウ属〕 <i>Valeriana flaccidissima</i> Maxim.(5/12) ミヤマガマズミ〔スイカズラ科ガマズミ属〕 <i>Viburnum wrightii</i> Miq.(5/12,17,10/10,11/5) ヤシャブシ〔カバノキ科ハンノキ属〕 <i>Alnus firma</i> Sieb. et Zucc.(5/14) ホタルカズラ〔ムラサキ科ムラサキ属〕 <i>Lithospermum zollingeri</i> A. DC.(5/15,17)

	<p> ヤブデマリ〔スイカズラ科ガマズミ属〕 <i>Viburnum plicatum</i> var. <i>tomentosum</i>(5/1619) カラスビシャク〔サトイモ科ハンゲ属〕 <i>Pinellia ternata</i> Breit.(5/16) モチツツジ〔ツツジ科ツツジ属〕 <i>Rhododendron macrosepalum</i> Maxim.(5/17,23) ウツギ〔ユキノシタ科ウツギ属〕 <i>Deutzia crenata</i> Sieb. et Zucc.(5/19) ヤマフジ〔マメ科フジ属〕 <i>Wistaria brachybotrys</i> Sieb. et Zucc.(5/19) ミツバテンナンショウ〔サトイモ科テンナンショウ属〕 <i>Arisaema ternatipartitum</i> Makino(5/21,25,27) ガマズミ〔スイカズラ科ガマズミ属〕 <i>Viburnum dilatatum</i> Thunb.(5/25) サウギク〔キク科キオン属〕 <i>Senecio nikoensis</i> Maxim.(5/27) エゴノキ〔エゴノキ科エゴノキ属〕 <i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc.(5/28) ヤブウツギ〔スイカズラ科ハコネウツギ属〕 <i>Weigela floribunda</i> C. A. Mey(5/27,28) バイカウツギ〔ユキノシタ科バイカウツギ属〕 <i>Philadelphus satsumi</i> Sieb.(5/28) コゴメウツギ〔バラ科コゴメウツギ属〕 <i>Stephanandra incisa</i> Zabel(5/30,31) イボタノキ〔モクセイ科イボタノキ属〕 <i>Ligustrum obtusifolium</i> Sieb. et Zucc.(6/1) スイカズラ〔スイカズラ科スイカズラ属〕 <i>Lonicera japonica</i> Thunb.(6/2) ノアザミ〔キク科アザミ属〕 <i>Cirsium japonicum</i> DC.(6/3) ハコネウツギ〔スイカズラ科ハコネウツギ属〕 <i>Weigela coraeensis</i> Thunb.(6/3) ササユリ〔ユリ科ユリ属〕 <i>Lilium makinoi</i> Koidz.(6/5,7,10,14) ヤマゴボウ〔ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属〕 <i>Phytolacca esculonla</i>(6/6) ヒロバスケ〔カヤツリグサ科スケ属〕 <i>Carex insanaeae</i> Koidzumi(6/8) キツリフネ〔ツリフネ科ツリフネ属〕 <i>Impatiens noli-tangere</i>(6/9,11,7/17,9/21) ミゾホオズキ〔ゴマノハグサ科ミゾホオズキ属〕 <i>Mimulus nepalensis</i> Benth(6/12,17,27) ミヤコアオイ〔ウマノスズクサ科カンアオイ属〕 <i>Heterotropa aspera</i>(6/16) ミヤマウラジロイチゴ〔バラ科イチゴ属〕 <i>Rubus yabei</i> Lev. et Van.(6/16) ムラサキニガナ〔キク科アキノオゲシ属〕 <i>Lactuca sororia</i>(6/17,26) ホタルブクロ〔キキョウ科ホタルブクロ属〕 <i>Campanula punctata</i> Lam.(6/18,20,7/14,18) ウツボグサ〔シソ科ウツボグサ属〕 <i>Prunella vulgaris</i> ssp. <i>asiatica</i>(6/21,15) ヤマアジサイ〔ユキノシタ科アジサイ属〕 <i>Hydroangea serrata</i>(6/21,24,28,30) トウギボウシ〔ユリ科ギボウシ属〕 <i>Hosta sieboldiana</i> Engler(6/23,7/3,10,21) クマノミズキ〔ミズキ科ミズキ属〕 <i>Cornusbrachypoda</i> C. A. Mey.(6/24) ムラサキシキブ〔クマツヅラ科ムラサキシキブ属〕 <i>Callicarpa japonica</i>(6/25) マタタビ〔マタタビ科マタタビ属〕 <i>Actinidia polygama</i> Miq.(6/26,28) モミジカラスウリ〔ウリ科カラスウリ属〕 <i>Trichosanthes smulitoba</i>(6/29) トリアシヨウマ〔ユキノシタ科チダケサシ属〕 <i>Astilbe odontophylla</i> Miq.(6/30) </p>
6月	<p> イボタノキ〔モクセイ科イボタノキ属〕 <i>Ligustrum obtusifolium</i> Sieb. et Zucc.(6/1) スイカズラ〔スイカズラ科スイカズラ属〕 <i>Lonicera japonica</i> Thunb.(6/2) ノアザミ〔キク科アザミ属〕 <i>Cirsium japonicum</i> DC.(6/3) ハコネウツギ〔スイカズラ科ハコネウツギ属〕 <i>Weigela coraeensis</i> Thunb.(6/3) ササユリ〔ユリ科ユリ属〕 <i>Lilium makinoi</i> Koidz.(6/5,7,10,14) ヤマゴボウ〔ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属〕 <i>Phytolacca esculonla</i>(6/6) ヒロバスケ〔カヤツリグサ科スケ属〕 <i>Carex insanaeae</i> Koidzumi(6/8) キツリフネ〔ツリフネ科ツリフネ属〕 <i>Impatiens noli-tangere</i>(6/9,11,7/17,9/21) ミゾホオズキ〔ゴマノハグサ科ミゾホオズキ属〕 <i>Mimulus nepalensis</i> Benth(6/12,17,27) ミヤコアオイ〔ウマノスズクサ科カンアオイ属〕 <i>Heterotropa aspera</i>(6/16) ミヤマウラジロイチゴ〔バラ科イチゴ属〕 <i>Rubus yabei</i> Lev. et Van.(6/16) ムラサキニガナ〔キク科アキノオゲシ属〕 <i>Lactuca sororia</i>(6/17,26) ホタルブクロ〔キキョウ科ホタルブクロ属〕 <i>Campanula punctata</i> Lam.(6/18,20,7/14,18) ウツボグサ〔シソ科ウツボグサ属〕 <i>Prunella vulgaris</i> ssp. <i>asiatica</i>(6/21,15) ヤマアジサイ〔ユキノシタ科アジサイ属〕 <i>Hydroangea serrata</i>(6/21,24,28,30) トウギボウシ〔ユリ科ギボウシ属〕 <i>Hosta sieboldiana</i> Engler(6/23,7/3,10,21) クマノミズキ〔ミズキ科ミズキ属〕 <i>Cornusbrachypoda</i> C. A. Mey.(6/24) ムラサキシキブ〔クマツヅラ科ムラサキシキブ属〕 <i>Callicarpa japonica</i>(6/25) マタタビ〔マタタビ科マタタビ属〕 <i>Actinidia polygama</i> Miq.(6/26,28) モミジカラスウリ〔ウリ科カラスウリ属〕 <i>Trichosanthes smulitoba</i>(6/29) トリアシヨウマ〔ユキノシタ科チダケサシ属〕 <i>Astilbe odontophylla</i> Miq.(6/30) </p>
7月	<p> キヌガサタケ〔スッポンタケ科キヌガサタケ属〕 <i>Dictyophora indusiata</i> Fisch.(7/3) ネムノキ〔マメ科ネムノキ属〕 <i>Albizia julibrissin</i>(7/4,7) チダケサシ〔ユキノシタ科チダケサシ属〕 <i>A. chinensis</i> Franeh. et Sav. var. <i>japonica</i> Maxim.(7/7,17) オカトラノオ〔サクランウ科オカトラノオ属〕 <i>Lysimachia clethroides</i> Duby(7/8) イヌザンショウ〔ミカン科ザンショウ属〕 <i>Zanthoxylum schinifolium</i>(7/9) ヤマユリ〔ユリ科ユリ属〕 <i>Lilium auratum</i> Lindl.(7/11,15,18,24) コウゾ〔クワ科コウゾ属〕 <i>Broussonetia kazinoki</i> Sieb.(7/14) オユリ〔ユリ科ユリ属〕 <i>Lilium lancifolium</i> Thunb.(7/18,8/11,17,20) タケニグサ〔ケシ科タケニグサ属〕 <i>Macleayacordata</i>R.Br.(7/19) カワラナデシコ〔ナデシコ科ナデシコ属〕 <i>Dianthus superbus</i> L.(7/22,8/7) ヤブミョウガ〔ツユクサ科ヤブミョウガ属〕 <i>Pollia japonica</i> Thunb.(7/31,8/7,31) </p>
8月	<p> ヌスビトハギ〔マメ科ヌスビトハギ属〕 <i>Desmodium racemosum</i> DC.(8/9,21) マツカゼンソウ〔ミカン科マツカゼンソウ属〕 <i>Boenninghausenia albiflora</i> Reichb.(8/9,27,28) イワタバコ〔イワタバコ科イワタバコ属〕 <i>Conandron ramondioides</i> Sieb. et Zucc.(8/11,14,15,19) フシグロセンノウ〔ナデシコ科センノウ属〕 <i>Lychnis miqueliana</i> Rohrb(8/17,21) クサアジサイ〔ユキノシタ科クサアジサイ属〕 <i>Cardiandra alternifolia</i> Sieb. et Zucc.(8/17,18,25,27,28) クサギ〔クマツヅラ科クサギ属〕 <i>Clerodendron trichotomum</i> Thunb.(8/17,30) アカメガシワ〔トウダイグサ科アカメガシワ属〕 <i>Mallotus japonicus</i> Muell. Arg.(8/17) キンミズヒキ〔バラ科キンミズヒキ属〕 <i>Agrimonia pilosa</i> var. <i>nipponica</i> Kitam.(8/18,26) ボタンズル〔キンボウゲ科センニンソウ属〕 <i>Clematis apiifolia</i> DC.(8/18) アキノタムラソウ〔シソ科アキノタムラソウ属〕 <i>Salvia japonica</i> Thunb.(8/19) トウバナ〔シソ科トウバナ属〕 <i>Clinopodium gracile</i> O. Kuntze(8/19) ヤマノイモ〔ヤマノイモ科ヤマノイモ属〕 <i>Dioscorea japonica</i> Thunb.(8/19) ヤブハギ〔マメ科ヌスビトハギ属〕 <i>Desmodium fallax</i> Schindl.(8/20) ヤブラン〔ユリ科ヤブラン属〕 <i>Liriope playphylla</i>(8/25) ガガイモ〔ガガイモ科ガガイモ属〕 <i>Metaplexis japonica</i> Makino(8/25,26,27) コアカソ〔イラクサ科マオ属〕 <i>Boehmeria picata</i> Thunb.(8/27) コクサギ〔ミカン科コクサギ属〕 <i>Orixa japonica</i> Thunb.(8/27) カエデドコロ〔ヤマノイモ科ヤマノイモ属〕 <i>Dioscorea quinqueloba</i> Thunb.(8/29,9/1) オトコエシ〔オミナエシ科オトコエシ属〕 <i>Patrinia villosa</i>(8/30,9/18) カワトリカブト〔キンボウゲ科トリカブト属〕 <i>Aconium grossedentatum</i> Nakai(8/31,9/17) シシウド〔セリ科シシウド属〕 <i>Angelica polyclada</i> Franch.(8/20,10/6,30) トリカブト〔キンボウゲ科トリカブト属〕 <i>Adconitum chinense</i> Sieb.(8/31,9/17) ヤマトリカブト〔キンボウゲ科トリカブト属〕 <i>Adconitum japonica</i> Thunb(8/31) </p>
9月	<p> ナベナ〔マツムシソウ科ナベナ属〕 <i>Dipsacus japonicus</i>(9/1) シラネセンキュウ〔セリ科シシウド属〕 <i>Angelica polymorpha</i>(9/1,10/3) アキチヨウジ〔シソ科ヤマハッカ属〕 <i>Plectranthus longiubus</i> Miq.(9/2) </p>

	<p>オオイヌタデ〔タデ科タデ属〕 <i>Polygonum nodosum</i> Pers.(9/3) カラスノゴマ〔シナノキ科カラスノゴマ属〕 <i>Corchoropsis tomentosa</i> Makino(9/3) ツリフネソウ〔ツリフネソウ科ツリフネソウ属〕 <i>Impatiens textori</i> Miq.(9/3,8) クズ〔マメ科クズ属〕 <i>Pueraria thunbergiana</i> Benth.(9/5) イヌタデ〔タデ科タデ属〕 <i>Polygonum Blumei</i> Meisn.(9/6) ホトトギス〔ユリ科ホトトギス属〕 <i>Tricyrtis hirta</i> Hook.(9/7) クサフジ〔マメ科ソラマメ属〕 <i>Vicia cracca</i> L. var. <i>japonica</i>(9/12) ナギナタコウジュ〔シソ科ナギナタコウジュ属〕 <i>Eisholtzia ciliata</i> Hylander(9/12) ヒヨドリバナ〔キク科ヒヨドリバナ属〕 <i>Eupatorium chinense</i> L.(9/12) マルバハギ〔マメ科ハギ属〕 <i>Lespedeza cyrtobotrya</i> Miq.(9/9,14) ツルボ〔ユリ科ツルボ属〕 <i>Scilla chinensis</i> Benth.(9/14) アメリカヤマゴボウ〔ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属〕 <i>Phytolacca americana</i> L.(9/4,10/17,11/6) イヌショウマ〔キンポウゲ科サランナショウマ属〕 <i>Cimicifuga biternata</i> Miq.(9/16,18,19) モミジガサ〔キク科コウモリソウ属〕 <i>Cacalia delphiifolia</i> Sieb. et Zucc.(9/16) ワレモコウ〔バラ科ワレモコウ属〕 <i>Sanguisorba officinalis</i> L.(9/21) ヤマホトトギス〔ユリ科ホトトギス属〕 <i>Tricyrtis macropoida</i> Miq.(9/24) ヒガンバナ〔ヒガンバナ科ヒガンバナ属〕 <i>Lycoris radiata</i> Herb.(9/25) ミツバアケビ〔アケビ科アケビ属〕 <i>Akebia trifoliata</i> Koidz.(9/3,10/5,10)</p>
10月	<p>マルバアサガオ〔ヒルガオ科サツマイモ属〕 <i>Ipomoea purpurea</i> Roth(10/5) ヤマハゼ〔ウルシ科ウルシ属〕 <i>Rhus silvestris</i> Sieb. et Zucc.(10/6) ツルニンジン〔キク科ツルニンジン属〕 <i>Codonopsis lanceolata</i> Sieb. et Zucc Trautv.(10/6,8) ウルシ〔ウルシ科ウルシ属〕 <i>Rhus verniciflua</i> Stokes(10/10) ゴマナ〔キク科シオン属〕 <i>Aster glehni</i> Franeh. et Sav.(10/11) アマナ〔ユリ科アマナ属〕 <i>Tulipa edulis</i> Baker(10/12) センブリ〔リンドウ科センブリ属〕 <i>Swertia japonica</i> Makino(10/11,13) ツリバナ〔ニシキギ科ニシキギ属〕 <i>Euonymus oxyphylla</i> Miq.(10/13) ミヤマウメモドク〔モチノキ科モチノキ属〕 <i>Ilex nipponica</i> Makino.(10/13) シラヤマギク〔キク科シオン属〕 <i>Aster rscaber</i> Thunb.(10/14) ヤマゼリ〔セリ科シシウド属〕 <i>Angelica miqueliana</i> Maxim.(10/14) モナミ〔キク科メナミ属〕 <i>Siegesbeckia pubescens</i> Makino.(10/15) リュウノウギク〔キク科キク属〕 <i>Chrysanthemum makinoi</i> Matsum. et(10/15,22) ヨメナ〔キク科シオン属〕 <i>Aster yomena</i> Makino(10/17,19,11/1,9) イヌコウジュ〔ナス科イヌコウジュ属〕 <i>Mosla punctulata</i> Nakai(10/19,30) アブラギク〔キク科キク属〕 <i>Chrysanthemum indicum</i> L.(10/19,11/1,31,1/15) シンバタツナミ〔シソ科タツナミソウ属〕 <i>Scutellaria laeteviolacea</i> Koidzumi(10/21) マムシグサ〔サトイモ科テンナンショウ属〕 <i>Arisaema serratum</i>(10/23) サネカズラ〔マツバサ科サネカズラ属〕 <i>Kadsura japonica</i> Dunal(10/22,11/20,12/6,21) サクラタデ〔タデ科イヌタデ属〕 <i>Persicaria consoicus</i>(10/26) オオミゾソバ〔タデ科タデ属〕 <i>Polygonum thunbergii</i> Sieb. et Zucc. H. Gross(10/22) コウヤボウキ〔キク科コウヤボウキ属〕 <i>Pertya ovata</i> Maxim.(10/30,31) ツリガネニンジン〔キク科ツリガネニンジン属〕 <i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>(10/29) ナツハゼ〔ツツジ科ニシキギ属〕 <i>Vaccinium oldhami</i> Miq.(10/31)</p>
11月	<p>ヤマホロシ〔ナス科ナス属〕 <i>Solanum japonica</i> Nakai(11/1) リンドウ〔リンドウ科リンドウ属〕 <i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>baergeri</i> Maxim.(11/1,19) カラスウリ〔ウリ科カラスウリ属〕 <i>Trichosanthes cucumeroides</i> Maxim.(11/3) ヒヨドリジョウゴ〔ナス科ナス属〕 <i>Solanum lyratum</i> Thunb.(11/3) ヤマハッカ〔ヤマハッカ亜科ヤマハッカ属〕 <i>Rabdosia inflexa</i>(11/4) マユミ〔ニシキギ科ニシキギ属〕 <i>Euonymus sieboidiana</i> Blume(11/9) イヌホオズキ〔ナス科ナス属〕 <i>Solanum nigrum</i> L.(11/6,15) ハダカホオズキ〔ナス科ハダカホオズキ属〕 <i>Tubocapsicum anomalum</i> Makino(11/15) キツネノマゴ〔キツネノマゴ科キツネノマゴ属〕 <i>Justicia procumbens</i> L.(11/15) コムラサキシキブ〔クマツヅラ科ムラサキシキブ属〕 <i>Callicarpa dichotoma</i> Raeus.(11/21) イロハモミジ〔カエデ科カエデ属〕 <i>Acer palmatum</i> Thunb.(11/25) オオニシキソウ〔トウダイグサ科トウダイグサ属〕 <i>Euphorbia maculata</i> L.(11/25) ナンテン〔メギ科ナンテン属〕 <i>Nandina domestica</i> Thunb.(11/27,28,1/10) カキノキ〔カキノキ科カキノキ属〕 <i>Diospyros kaki</i> Thunb.(11/23,12/15)</p>
12月	<p>アオキ〔ミズキ科アオキ属〕 <i>Aucuba japonica</i> Thunb.(4/21,12/3,15) カミエビ〔ツツラフジ科アツツラフジ属〕 <i>Cocculus trilobus</i> DC.(12/4,5) ビワ〔バラ科ビワ属〕 <i>Eriobotrya japonica</i> Lindl.(12/6)</p>

2003年4月現在

参考：原色牧野大図鑑、同続編、樹木大図鑑、日本植物誌（北隆館）、日本の野生植物ⅠⅡⅢ、木本ⅠⅡ、シダ（平凡社）

大阪府河南町土地分類調査報告書（1984.3）、日本国土地理院地図

撮影：池田光恵

写真監修：太田真（以下敬称略）

写真プリント：谷川浩巳

植物名同定協力：出原茂樹